

退任挨拶

○前事務次長 高野 祐子

事務次長から城北労働・福祉センター管理課長に異動いたしました。

府中療育センターでは、多くの学びと貴重な経験をさせていただきましたこと、皆様の御厚情に心より感謝申し上げます。

府中療は、様々な職種が連携し、医療と福祉の両面から安全で質の高い支援を実現しており、それを真摯に支える皆様の姿に強く感銘を受け、私にとって忘れられない職場となりました。

またどちらかでご縁がありましたら、どうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念いたしております。



○前看護担当科長 木田 井草

府中療育センター在任中は大変お世話になりました。感謝の気持ちでいっぱいです。コロナ禍での新センター移転など大変だったと思うこともあります。振り返ると、心に残るのは職員の皆さん一人ひとりの対話です。ご利用者のケアについて語りあったこと、そして、心が折れそうになっている時にかけて頂いた温かい言葉など、全て私の宝物です。府中療育センターで皆さんとともに働き、退任の日を迎えられる私は本当に幸せです。ありがとうございました。



○前歯科医長 笹尾 真美

5年間、ありがとうございました。

歯科が新センターから常設になるとのことで2020年4月に赴任し、歯科診療時の全身管理、鎮静、全身麻酔を担当。重症心身障害児者施設での勤務経験はなく不安でしたが、心熱きスタッフの協力を得、繰り返し開催した勉強会や反省会が礎となり、何とか現在の診療体制が築けました。主治医の先生方からいただくアドバイスは何よりありがたく診療の支えとなりました。利用者に寄り添う、安心、安全で快適な歯科診療を心より願っています。



○前栄養科長 本荘谷 利子

大変お世話になりました。

着任しました5年前は新センター引っ越しを控えた慌ただしい時期でした。栄養科では、他にも通園食の開始、盛付・配膳委託の導入、電子カルテの運用と合わせて4つの課題があり、無我夢中で取り組んだことが思い出されます。何とか無事にここまでこられたことは、ひとえに院内職員の皆様にご支援ご協力いただいたお陰様と感謝の念に堪えません。

府中療育センターの今後益々の発展と、皆様のご健勝をお祈りいたしております。ありがとうございました。



〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042(323)5115

FAX 042(322)6207

*ー*ー*ホームページもご覧下さい*ー*ー*

<http://www.fukushi.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>

ひだまり

都立府中療育センター新聞 第568号 発行日 令和7年4月30日

着任挨拶

○ 院長 清水 俊夫（しみず としお）

隣接する神経病院から異動してまいりました。私は37年間神経病院にて難病医療に従事してきましたが、残りの任期においては重症心身障害者（児）の医療に携わるようにとのことで、私にとっては新たなチャレンジとなります。重心医療との関わりは、学生時代に当時の国立療養所に実習に行った時以来であり、筋ジストロフィーの患者さんと過ごした時間を思い出します。府中療育センターの理念には「すべての利用者の生活がより豊かになるよう」と記されています。この「生活が豊かになる」という表現は、病院の理念としてはまず見ることのないものです。少子高齢化と経済の疲弊が進む今の時代にあって、改めて「生活の豊かさ」について深く考える必要があると、気持ちを新たにしています。

難病医療しか知らない私に院長としての重責を果たせるかどうか不安もありますが、障害を持つ方々への医療・ケアという点では、難病も重心も共通することが多いと考えています。まだ至らぬ点が多いかと存じますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。



退任挨拶

○ 前院長 伊藤 昌弘（いとう まさひろ）

このたび定年を迎え退職することとなりました。府中療育センターに来て7年経過しましたが、職員の皆さまに支えていただきながら働くことができたことを心より感謝申し上げます。振り返れば、2020年の旧府中療育センターと多摩療育園の統合と移転、また電子

カルテの導入など、無難にできましたことは皆様のご協力の賜物だと思っておりますし、私にとって貴重な経験となりました。また新型コロナウイルス感染症は社会に多大な影響を及ぼし、今までの概念を根本的に変えてしまいました。徐々に以前のように戻ってきていますが、課題も多く存在しています。これからも皆様のお力で新しいセンターを作っていただければと思っております。

今後は東部療育センターの院長として、府中療育センターでの経験を活かし職員や利用者のお役に立てればと考えております。皆さまのご健康とますますのご活躍をお祈りしております。本当にありがとうございました。

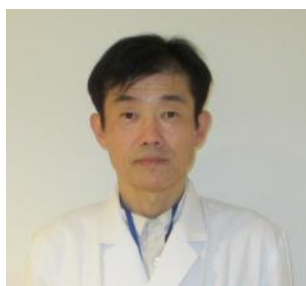


着任挨拶

○小児科部長 八谷 靖夫

4月1日付けで小児科部長に着任いたしました八谷靖夫です。3月まで国立病院機構東長野病院で、重症心身障害病棟の診療をしていました。平成11年4月～平成19年12月（途中八王子小児病院へ1年ほどの勤務を経て）まで、府中療育センターに勤務いたしました。

新センターでいろいろとわからない点を教えていただきながら、業務を進める所存です。利用者様の生活が充実するように努めて参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



○事務次長 西村 修二

4月1日付けで事務次長に着任しました西村修二です。前職場は、同じ障害部の多摩総合精神保健福祉センターです。27年前に都立清瀬小児病院に配属されて以降は、主に福祉保健分野の本庁や保健所等の事業所で勤務してきましたが、こちらに着任すると、以前ご一緒した職員の皆様もいて、心強い限りです。

府中療育センターは、都立の重症心身障害児者施設として重要な使命と役割を担っており、身の引き締まる思いです。利用者に寄り添う療育・医療サービスを提供し、全ての利用者の生活がより豊かになるよう、事務次長として貢献したいと考えております。

各部門の様々な職種の皆様と連携しながら、日々頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



○小児科部長 栗原 亜紀

新年度より小児科部長を拝命しました栗原亜紀です。多摩療育園の非常勤時代から数えますと15年目に入りました。日頃より関係各所の皆様にはたくさんご協力いただき、本当にありがとうございます。

外来診療では肢体不自由領域も知的発達症領域も、都民のみなさまのニーズに応えられるよう、当センターならではの取り組みにスタッフ一同邁進してまいります。

これからも、ますますのご協力とご指導をどうぞよろしくお願い申し上げます。



○栄養科長 能勢 彰子

多摩南部地域病院から異動してまいりました能勢と申します。入都後の5年間七生福祉園に勤務し、その後病院を転々としながら再び福祉局にもどってまいりました。とても懐かしく思います。

全ての利用者さんの生活がより豊かになるよう支援するために、食生活を担う栄養科の責務は大きいと感じています。

お食事をとおして季節や祭事を感じ、生活に彩りを添えることができるよう、栄養科職員一丸となっておいしいお食事を提供してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



○歯科医長 星合 泰治

4月1日付けで歯科科長に就任いたしました、歯科医師の星合泰治です。令和4年に府中療育センターに着任し、これまで微力ながら利用者の方の歯科診療や口腔衛生管理に携わってまいりました。

今後も、他部門の皆様と連携しながら、利用者の皆様が安心して豊かに暮らせるよう、歯科の立場から寄り添い支援していく所存でございます。前任の笹尾先生から引き継いだ良いところを残しながら、さらに



歯科部門を発展できればと考えておりますので、どうぞ皆様のご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



○看護担当科長 山本 和佳子

皆さんこんにちは。看護科人材育成担当科長に就任いたしました山本和佳子です。私は府中療育センターには平成29年に看護師長として着任し、それから専任RM、すべての医療病棟の看護師長、研修教育担当看護師長という経験をさせていただき、この度は看護担当科長という役割を与えていただきました。

今はまだわからないことばかりですが、工藤看護科長をはじめ皆さまのお力を借りながら、利用者の皆さん、そして職員の皆さんのたくさんの笑顔があふれる府中療育センターとなるよう努めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



退任挨拶

○前小児科部長 小森 穂子

都立多摩療育園に16年2か月、新しい都立府中療育センターに4年10か月在職しました。施設老朽化のため新しい建物に2つの組織が移転統合したことで、新センターには外来機能と児童発達支援センター機能が加わり、重症心身障害者の生活介護事業と合わせて在宅支援機能が強化されました。

障害種別を問わない外来診療や児童発達支援を通して、障害を持って地域で暮らす方々やご家族の生活支援を強化し、都立施設の使命を地域で果たせるよう新センターのさらなる発展に期待します。



○前小児科部長 寺川 敏郎

このたび定年退職いたしました。思えば長きにわたり府中キャンパスに関わってきた医療人生でした。都立府中病院から小児総合医療センターになる時は計画設計にも携わり、病院、人事も落ち着いたところ、府中療育センターへ異動、そして新しいセンターへの引っ越しと思い返してみればなかなかの経験だったと思います。

病院では具合の悪い時にしか関われなかった自分としては、バスハイクや夏祭りや初詣など日常に触れながらの医療的支援は新鮮で、ほっこりしたものです。これからも府中キャンパスでたまに見かけることもと思います。気軽に声をかけてください。

